

2009年度 研究室便り

研究室だより

卒業生・修了生の皆さまにおかれましては、ますますご健勝のこととお慶び申し上げます。本年度も西洋史学研究室の近況をご報告させていただきます。

2009年度の教員スタッフは、神寶秀夫教授（ドイツ中・近世史）、山内昭人教授（インタナショナル史）、岡崎敦准教授（フランス中世史）の三名の専任教員に加えて、昨年度より非常勤講師として、佐賀大学より都築彰先生（イングランド中世史）、熊本大学より三瓶弘喜先生（アメリカ史）にご出講をお願いしております。集中講義は、9月に、青山学院大学の羽場久美子先生（EU史）による授業が予定されています。

学生は、学部・大学院をあわせて24名が、日夜勉学に励んでおります。伝統的に変わらぬ勉強重視の研究室として、意識の高い学生を擁しています。博士後期課程の岡部直樹君がブルガリアより無事帰国したこともあり、現在留学生はおりませんが、海外との積極的な交流は本研究室の伝統でもあり、今後も途絶えることがないよう、支援してまいりたいです。

大学院では、修士課程に、今年度あらたに、酒井沙織さん（イングランド中世史）が入学しました。修士2年の福永衣里さん（フランス現代史）は、ジェンダー史の研究を続けています。博士後期課程では、2年の大浜聖香子さん（フランス中世史）が、夏の研究会、秋の学会報告を控えて、勉強に邁進しています。同じく、博士後期課程3年目の法花津晃君（フランス中世史）は、論文執筆や報告を行うかたわら、留学を準備中です。最後に、ブルガリアに留学していた岡部直樹君が、この春に帰国し、論文の完成を目指して研究に邁進しています。

研究室の年中行事としては、本年度も、年度初めの「進学（専門分野決定）式」、「進学生歓迎コンパ」、5月、11月、1月の「卒論構想発表会」、夏休みの「オープン・キャンパス」、「合宿旅行」、9月末の「進学ガイダンス」、年度末の「追い出しコンパ」等が予定されています。昨年度は、数年ぶりに「書庫整理」担当となり、研究室総出で書物や雑誌のチェックにあたりました。学生・院生による自主的な研究室運営という伝統は、さまざまな困難にも関わらず守られておりますので、ご安心下さい。

本研究室主体の学会・研究会関係では、3月と11月に九州西洋史学会、12月に九州史学会（西洋史部会）が例年通り開催されました。九州西洋史学会秋季大会では、古賀秀男先

生のご近著をめぐってシンポジウムが設定され（『キャロライン王妃事件』、人文書院）、OBの星乃治彦氏による報告が行われるなど、活発な議論の場となりました（共通題目「スキャンダルと公共圏」）。科学研究費の助成を受けている「西欧中世史料論研究会」では、昨年は年3回の国内研究会に加えて、本年2月にはブリュッセル自由大学のアラン・ディルケンス教授を招聘し、活発な議論が交わされました。また、4月には、経済学部藤井美男教授のお世話により、レウヴェン大学のエリック・アールツ教授の講演会を開催しました。史料論研究会と「近代国家研究会」では、昨年度あらたにホームページを立ち上げ、研究成果を公開しています。その他、ラテン語読書会「タキトゥスの会」を始めとして、多様な催しに会場と人材を提供しております。

このように本研究室は、九州における西洋史学研究ならびに国際的学术交流の拠点として、周辺の大学や研究教育機関と連携しつつ、研究教育・社会活動を変わず推進しています。

末筆ながら、皆様のご健勝、ならびにより一層のご発展を心よりお祈り申し上げます。

（文責 岡崎敦）

【会員近著紹介】

MIYAMATSU, Hironori, *La Naissance du Riche dans l'Europe médiévale*, Rennes, Perseides, 2008